

恩返し

2024. 4. 30

日本国民の中で、一番多い年齢は何歳なのだろうか。100歳以上が5万人という時代に入った。一番多いのは、61歳なのだそうだ。これに、62歳、63歳、60歳が続く。この年代が、今の日本の人口の大きな部分を占めている。ということは、日本は完全に大人の時代に入ったとも言える。以前は、シルバーと呼ばれていた世代が、日本の活力を担うわけである。したがって、高齢者が頑張らないと日本の将来はないということになる。

大人という言葉の意味が変わってきているように思う。50代までは青年であり、60代からようやく大人と考えた方がいいのかもしれない。今までならば、70歳、80歳ともなると、悠々自適に暮らすのが定番だった。しかしこれからは、好きなことや趣味の世界だけではなく、世のため、人のために働かなければならない。定年が延びていくが、今の65歳は、元気である。まだまだ体力が充実している。知力も大丈夫であろう。

今までだと、60歳になると、世の中から横へスライドするイメージがあった。自分たちは、社会を観客席から見ているようなところがあった。そうではなく、これからは、自分たちの感覚が、世の中の主流なんだという意識と自覚が必要である。そこには、責任も生じる。だからこそ、謙虚にならなければならない。

この4月から、新たな仕事に就いたわけだが、横にスライドしているつもりはない。自分としては、退職ということに対して特別な感慨もなく、感傷に浸ることもない。だが、まわりはそうではない。「お疲れ様でした」というような反応である。やはり、退職というのは、その人の人生における大きなイベントであることを認めざるを得ない。

いかに自分が、世のため、人のために貢献していけるか。公立幼稚園で仕事をする者として、長年教育の場に身を置いてきた者として、ソフトテニスを通して成長することができた者として、恩返しをしていきたい。恩返しというスタンスで考えれば、自分にできることも見えてくるような気がする。

幼稚園児を見ていると、可能性に満ち溢れた、大事な大事な存在に感じる。この子どもたちが、成人する頃には、どのような世の中になっているのだろうか。親になる頃には、どうであろうか。子どもたちが、夢と希望をもって、自分の人生を力強く歩んでいけるようにしてあげるのが、大人の責務である。その大人には、私や同年代も入ることになる。そう考えると、責任が重いように感じる。まだまだ引退はできない。